

## 平成 24 年度 第 2 回 学校協議会議事録

日時 平成 25 年 3 月 6 日 (水) 15 時 ~ 17 時

場所 茨木工科高校 会議室

### 出席者

座長 1 名 委員 6 名 校長 教頭 事務部長 分掌長 4 名 系長 2 名  
職員代表 2 名 初任者 1 名

### 内容

#### 1. 開会挨拶 (校長)

午前中、第 6 回卒業証書授与式を無事終えることができた。卒業式に引き続き、ご出席いただいている方も 4 名おられ、重ねてお礼申し上げる。卒業式では次第が全部終わった後、卒業生から声が上がリ数名の生徒が壇上に上がり保護者、教職員に感謝の言葉を述べてくれた。突然のことでびっくりしたが感激した。

さて学校の方だが、2 月 20 日に前期入学者選抜が行われ、354 名の志願者があり、2 月 26 日に 320 名の合格者を発表した。詳しくはこの後、教務主任から報告がある。今年は入学者選抜の方法が変わり、普通科の高校も 2 クラス規模で前期選抜になった。私が、茨木市内の中学校を訪問した感触、その後続く進路希望調査では、定員割れの可能性が高いと予測していたが、何とか志願倍率が 1.1 倍を越え、胸をなで下ろした。中学校訪問 106 校、塾訪問 40 等、PR 活動が効をそうした部分もあると思っている。卒業式、1、2 年生の学年末考査も終わり、成績処理等、しばらく慌ただしい状況が続く。

今日は、2 回目の学校協議会ということで、この 1 年間の学校がやってきたことの成果等を報告させてもらう。忌憚のないご意見をいただき、学校の改善につなげていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

#### 2. 座長挨拶

4 2 年ぶりに J R 茨木駅から歩いたが風景が変わっていて道がわからなかった。今日の卒業式もサプライズがあり非常によかった。

この会議は府の教育委員会の付属機関として学校に意見をやる会議だということで、今日は学校教育活動の総括をするということで忌憚のない意見交換を行いたい。

#### 3. 出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介

#### 4.平成24年度 本校教育活動の結果報告について協議(司会進行:座長)

##### (1)教育目標の達成状況について(校長)

A3版の平成24年度 学校経営計画及び学校評価(案)を見てほしい。

今年度の学校経営計画について学校としての自己評価を、教育委員会に提出した。1月末段階で1回目の提出を求められているので、(案)となっている。学校の教育活動はまだまだ続いているので3月末に最終のものを提出するが、その時には(案)がとれたものを出す。学校経営計画は表面には3年程度の中期目標を示しており、裏面はその中期目標に対する今年度の取り組みと自己評価を記入する。学校教育自己診断、2回目の学校協議会は1月末段階ではまだ実施されていないので空欄になっている。学校教育自己診断については今日、報告する内容を整理して書き込む。また、学校協議会からの意見については、今日の協議を踏まえ、記入させていただく。第1回の10月17日については、みなさんからいただいたご意見、ご質問を分析し、学校協議会からの提言という形にしている。必ずしもこの通りの文言があったということではないのでご理解いただきたい。

裏面の一番右の列の自己評価を今回記入した。それぞれの項目の後ろの、は達成度合いを示している。これは、府教委の指示によるものである。特に注目して欲しいところが7点ある。この7点について簡単に説明する。

まず、「基礎的・基本的な学力の定着」という目標の中から 中退改善を目指す取り組みであるが1月11日現在の中退者数は、今年度は32名、昨年の同時期は34名と微減である。中途退学者数を減らすという目標を立てていたが達成できていないということである。昨年度の中途退学者の割合は8.6%であった。今年は何とか減らそうとしたがそう大きくは変わらない。来年度は3年間で中途退学者を5パーセント未満にしようという計画を立てているが、ハードルは高いだろう。

「学びなおし」の項目から本校は新入生に対して数学基礎診断テストを実施しているがかなりの年数同じ問題を使用している。正答率が低い者には補習ののち再テストを課しており、再テストの得点を5ポイント以上上昇させるという目標設定をしたが2.8ポイント上昇にとどまった。

新たな教育課程の項目から教科「工業」の中に学校設定科目「工業入門」(1単位)を学び直しとして開設することになった。来年度より週1時間、1クラスにつき3人の教員が数学を中心とした基礎学力の向上を図る授業を実施する。授業内容については1年間試行錯誤しながら決定し次年度に総括する。

規範意識を身につけさせる項目の中から「学校のたたずまい」ということで後から生活指導部より報告があるが、生指部を中心として教職員が一丸となって取り組んだ結果12月21日現在の遅刻者数が昨年同時期比で22%減じた。年度末に向け約3割減が見込まれている。しかし、もともとの数字がかなり多い。来年度はさらに2割の減を目標にしている。

「自立・自己実現の支援」の目標の中から、資格取得に向けた取り組みの項目で電気系の生徒には電気工事士の資格試験を全員受験させている。早朝、放課後、土日の補習等を通して第2種電気工事士の資格取得を70%の合格率をめざしたものの、合格率は

69.1%とわずかに下回ったが、自己評価は「 」を付けた。合格率70パーセントはかなり高い目標であり大阪府下でも誇れる数字である。

就職試験に向けた取り組みの項目では就職内定率100%の堅持はもとより1次就職試験合格率60%台をめざしたが58.6%であった。1月末で学校紹介による就職希望者内定率は100%を達成した。

人権教育・支援教育に向けた取り組みの項目では学校教育自己診断によるアンケートで本校の人権教育に関する取り組みに肯定的な回答40%以上をめざした。昨年度は31%であったが今年度の調査では42%あった。

「地域連携」の目標の中からは いろいろな書いているが今年も電気系で「いばらき光回廊」(イルミネーション)に参画し、新たなイルミネーションを製作しJR茨木駅付近の施行の約4割を担当した。「広報いばらき」の表紙にもなった。機械系の朝礼台の寄贈も継続して行っている。前回もお話したが「がんばった学校支援事業」の支援校の指定を受け500万円の支援を受け、溶接の設備の充実を図れたことにより、なお一層の地域貢献活動が実施できるだろう。

各種イベントに向けた取り組みの項目では和歌山大学宇宙教育研究所と連携しハイブリッドロケットの打ち上げを3月に予定している。それに先立って3月14日に燃焼実験をするがかなりの音がする。地域の皆様にはあらかじめ連絡させていただくが危険性はないので理解してほしい。

- (委員) 数学については学校でやっているが、家庭ではどうか？ネクタイが結べない、カッターが汚れている生徒が多いように思う。
- (校長) 家庭のサポートであるが、毎年新入生に実施しているアンケートによると家庭での学習時間が0時間という項目に50%を超える生徒がマークしている。ひとり親家庭も多く保護者に余裕がない。
- (委員) 小学生の子供にはよくかまっているように思うが、中・高と進むにつれて親が干渉しなくなっている。
- (座長) 「工業入門」は効果がなかったのか？
- (校長) 「工業入門」は来年度からの実施である。数学基礎診断テストの再テストでの上昇率が低かった。習熟度別に8クラスに分け、複数の教員で指導したが効果が少なかった。
- (座長) インターンシップの参加者が減っているが？
- (校長) 学年により変動がある。1年生での参加が昨年の3名から、今年は8名に増加した。地域の協力企業も増加している。来年度はインターンシップに参加した生徒の体験発表会を考えている。
- (座長) 系によるばらつきはあるのか？
- (首席) 昨年は電気系の1クラスで半分の生徒が希望した。一昨年は今年と同様の希望者であった。
- (座長) 地域連携は素晴らしいが、中退者の数が多いのは残念である。

(2) 平成24年度生活指導部報告について(生徒指導主事)

会議が始まるまで本校を中途退学した人と話していた。やめたことを非常に後悔していた。やめてよかったという話を聞いた事がない。校長ともよく話をしているが中退を防止するためにはまず遅刻を減らそうと考え行動してきた。数にして5000件ぐらい減少したが、本校と同規模の学校からするとまだまだ多い。中退者を減らすために次年度もさらに指導に力を入れていきたい。

今年度は教員の巡視回数を減らした。昨年度は週あたり一人2.5時間の巡視があったが今年は1時間に減らした。巡視も減らし、生徒の授業抜け出しも減らし、転退学者の減少につなげる事が来年度の目標である。

(委員)中2の時に教師とけんかしていた生徒が今日卒業した。中学の時は避けていたが、体育祭の時に飲料水の販売をしていると声をかけてきた。文化祭の時、廊下を巡回していると「就職が決まった。」と報告に来てくれた。高校に入学して変わったことを実感した。今、中学校で問題になっているのは不登校であったり、学校を抜け出し制服姿で自転車の二人乗りをしタバコを吸うという生徒であり、そのような生徒もここに来ている。保護者は生徒より早く家を出るため連絡がつかない、そのような状況の中でどのような取り組みをしようとしているのか？ 巡視を減らした事への狙いは何か？

(生徒指導主事)遅刻の件では保護者が先に出かけてしまい、起こす人がいなくて気づいたら昼ごろやったというのが現実だろう。タバコについてはたいがい保護者が吸っていることを知っているが注意ができないと言っている。経済的に苦しい家庭が多く、カッターを1枚しか持っていない生徒もいる。遅刻については「声かけ」が有効であったと感じている。遅刻せずに登校してきたら褒める。生徒にすると生指室はあまり行きたくないところだろうが、今日の卒業式の後多くの生徒が感謝をこめて訪ねてきてくれた。

巡視の件だが、教師の主たる業務は授業である。巡視に充てる時間を教材研究をしてもらいたかった。集会で生徒にも話をしているが「見張っている」という行為はしたくないと伝えている。

(委員)最近制服、名前入りで悪いことをする。かまって欲しいんだろう。

(委員)卒業式には感激した。日々先生方が頑張ってくれた証だろう。最近問題になっているいじめはないのか？

(生徒指導主事)具体的な数字は出せないがいじめはあった。暴力行為、使いパシリ、生徒はいじめている自覚がなかった。「一緒に遊んでいただけ、嫌ならやめてと言って欲しかった。」という生徒が多かった。保護者も同じような感覚であった。

(委員)家庭環境もあるだろうが、保護者も考えさせられる問題である。

(生徒指導主事) 懲戒指導は保護者にも来校してもらうが、かなりの時間を割いて話をしている。印象として9割の保護者は学校の指導に理解を示しているが、不満を持つ保護者もいる。じっくり話をして理解してもらおうようにしている。自分の子どもからの話を聞いて「なぜこれがいじめになるのか」という保護者もいたが、理解してもらった。

(3) 6期生(平成25年3月卒業予定)の進路について(進路指導主事)

本日卒業した生徒の中で1名だけ進路が決まっていない生徒がいる。この生徒は京都府医師会の看護専門学校に補欠合格している。最終結果が分かるのが3月末なのでこの生徒だけが今日現在では未定となっている。大学・短大の進学結果だが普通科の高校にはない工科高校特別推薦枠で大阪工業大学、大阪電気通信大学、関西大学、龍谷大学に合格している。他の大学は本校に指定校として推薦をくれたところである。専門学校の合格一覧も出しているが今年の特徴は理美容学校に進む生徒が多い。

就職であるが、1月31日で学校紹介を希望した生徒は全員決まった。本年度の求人は358社、456名分の求人があった。2月に入ってから数十件企業からの問い合わせをもらったが全員決まっていたので断りを入れている状態である。夏休みに保護者を交えて4者懇談を行っているが保護者の希望は大手企業が多い。本校には京都・滋賀地域からも求人が来るので大手を狙ってチャレンジしたが残念な結果に終わったという生徒もいるので、1次内定率は58.6%となっている。来年度は何とか60%を超えるように指導したい。

(座長) 大学に進学する生徒はほとんどが推薦入学か？

(進路指導主事) 工科高校枠と、指定校推薦枠で決まった。

(4) 平成24年度資格取得実績及び各種大会・コンクール、コンテストの実績状況

(首席)

資格の種類であるが「国家資格」とは免許と呼ばれるものでありその資格を持っていないと作業できないものである。「検定」とはその技術においての技量を図るものであり珠算などと同様である。「技能講習」とは本校在学中に勉強した内容を表わすものであり種類としてはこの3種類ある。国家資格の中で電気工事士や工事担任者の資格は主に電気系の生徒が取得しており、危険物取扱者は環境化学システム系の生徒が取得している。機械系では技能講習を主にやっている。第2種電気工事士の資格取得者が昨年度と比較して今年度は少ないが、今年度は電気系を選択した生徒数がもともと少なかったのでこのような結果になった。2年生を全員受験させるので合格率は7割くらいで昨年度と大差はない。検定試験では計算技術検定試験4級で授業の内容を変更し、早くから検定試験を受験させたため合格者が増えている。技能講習は授業

を選択した生徒が取得するので毎年だいたい同じような数になる。

(座長) 国家資格の取得目標はどれくらいか？

(首席) 座学と実技試験があるため合格率7割はかなり大きな数字である。

コンテストの部門であるが全日本ロボット相撲近畿地区大会で4位に入賞し  
全国大会に出場した。全国大会で1勝しベスト16の成績を残している。

(5) 平成24年度クラブ・同好会の活動実績について(特別活動指導部長)

本校はクラブが22、同好会が3、合計25のクラブ・同好会が活動している。運動部は実業総体で上位に進出する活躍をしている。実業総体とは実業系の科目を持つ高校が集まって大会を開催しているものである。文科系では今1番クラブ員が多いのは軽音楽部である。クラブ・同好会の全体の加入率は昨年5月現在で42%である。

(校長) クラブ・同好会の加入率であるが工科高校の中で42%は低いほうではない。  
3年後には60%の加入率をめざしている。

(座長) 具体的な方法は？

(校長) かつては1年生に強制加入というような方法をとっていたが実態に合わず廃止した。

(座長) 就職の時クラブ加入は考慮されないのか？

(進路指導主事) 考慮する企業が多い。

(座長) クラブの加入者とそうでない者との相関関係を調べ今後の指導に生かしてほしい。

(6) 学校教育自己診断の結果(首席)

3年生の生徒・保護者については2月5日までに回答を求めた。1・2年生は2月6日のHRでアンケートを行い、保護者については2月15日までに回答を求めた。全学年の生徒の集計結果を肯定的に回答した順に並べ替えると、「この学校には他の学校にない特色がある」「授業では実験・観察・実習などの時間がたくさんある」という工科高校としての特徴をあげる生徒が多くいた。保護者については1年生108名、2年生103名、3年生についてはほぼ9割近い198名の保護者に回答をもらった。生徒と同様、全保護者409名分を肯定的な回答をした順に並べるとどの学年においても「子どもをこの学校に入学させてよかった」という項目がトップに来る。「学校が保護者に出す文章・事務連絡は適切である」という項目も2番目に来ているが自由記述の中で「担任と1回も懇談をしたことがない」と書かれたものが複数あった。成績や行動面で学校に呼ばれることはあっても、それ以外の生徒の保護者については懇談をしていないこともある。ただ、3年になれば進路を決定するために夏休みに全員の保護者と懇談をする。

生徒が回答した中で不思議に感じたことがあった。「HR活動は活発でクラス全体で積極的にかかわっている」という項目で3年生だけが肯定的な意見が非常に高かった。1月に学年で球技大会を2回にわたってHRの時間中に実施したからかと思っていたが、今日の卒業式で分かったような気がする。卒業式の式次第もすべて終了した後、司会者が「卒業生退場」と言いかけると卒業生から声がかかり複数名の生徒が壇上に上がった。壇上の生徒の指揮により卒業生が全員立ちあがり保護者席のほうに向きなおりそれぞれが感謝の言葉を述べた。この行動は卒業生が自ら起こしたものであり教員が指導したものではない。クラスで生徒が独自に考え取った行動である。この事が「HR活動は活発である」という答えになったんだろう。

全体としての考察であるが、平成23・24年度の生徒比較、保護者比較において、肯定的ポイントに差が多く出たものについて考察した。生徒は授業中、いろいろ考えたり、発表する場面もあり判りやすく楽しいと学年の半数近くが感じている。また教員の指導には納得し、担任以外にも気軽に相談できる教員を持っており、HRでは将来のことを考える機会が多くあると感じ、本校に入学してきてよかったと思っている。

保護者については学校からの情報発信におおむね満足しており学校の教育内容にも理解を示している。部活動に参加している生徒が少ないこともあり保護者は部活動の様子はあまり分からないと答え、生徒会の活動についても芳しくはないが、各学年の9割近くの保護者がこの学校に入学させてよかったと答えている。

(座長) 教師は一生懸命やっているが生徒は感じていない。授業評価はしているのか？  
(首席) アンケートは取っているが、公表はしていない。教師個人が考える材料にしている。

(座長) 大学では公表している。何らかの形で公表したほうがよいだろう。クラブ活動の様子も保護者には伝わっていない。このまま置いておくわけにはいかない。何らかの方策を講じてもらいたい。

(校長) 来年度からは授業評価アンケートを教職員の評価に使用すると条例で決まった。本校でも年2回、前期末と学年末、教員それぞれが最後の授業でアンケートを取っているが、来年度からはHRで一斉にアンケートを取り、外部委託で集計し、100点満点で点数化される。

(座長) 授業公開はしているのか？

(校長) 一定期間設けているが公開件数は少ない。来年度からはもっと公開するよう働きかける。

(座長) 自由記述では厳しいことが書かれているが？

(校長) トイレについてはきれいにできるよう考えている。

(座長) トイレをきれいにしたら受験生が増えた大学もある。

(7) 平成25年度入学者選抜について(教務主任)

入試に関する事なのであまり公にできないこともあるが、今年度から調査書の評定の配点に変更になり、昨年度は190点満点であったが今年度は150点満点に変更された。また、小論文が導入され学力検査の配点が昨年の160点から180点に増えた。その結果、総合点は350点満点から330点満点となった。

普通科高校が前期選抜を行うことにより志願者数の減少を覚悟していたが1.11倍の志願者があった。平成18年度からのデータをみると今年度は女子の合格者が24名と最多になっている。

(座長) 配点は高校独自で変えられるのか?

(教務主任) 府教委の指示であるので変えられない。

(座長) 倍率が上がったのは広報活動の成果か?

(教務主任) 直前の中学生対象の調査では定員に達していなかった。

(座長) 入試制度が変わったからか?

(教務主任) まだ検証は行っていない。

(校長) 倍率は若干上がったが、学力については未知数である。

(8) 質疑応答

(校長) 中学校から入試制度の変更に関して何かアドバイスはないか?

(委員) 入試制度の変更については高校側もいろいろ意見はあるだろう。今日話し合った内容などをよく精査して今後のPR活動につなげて行ってもらえればと思う。中学生も緊張を保てない生徒もいてなかなか大変である。

(座長) 特色があるとかが、入学させてよかったとか評価は高いので今後も頑張ってもらいたい。

(委員) 今日の協議会で感じたことは茨木工科の教職員が生徒をやめさせてはいけないという気持ちを持っていることと、どこに生まれてもどこで育ってもそこに生まれてよかった、そこで育ってよかったと感じることである。アンケートの結果を見れば生徒・保護者は茨木工科に入学してよかったと感じている。この2つのことは非常に大事なことであり、今後も頑張ってもらいたい。

5. 閉会の挨拶 (校長)

長時間に亘りいろいろな意見をいただきありがたかった。今後も中退者を減らす努力を続けていきたい。

6. 事務連絡 (教頭)

来年度は協議会を3回する。6、10、3月を考えている。